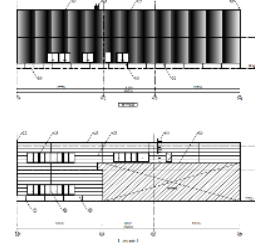




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)札幌トヨタ自動車機分室建替工事	階数	地上2F
建設地	札幌市中央区宮の森3条1丁目4-2の内	構造	S造
用途地域	準工業地域・法22条の地域	平均居住人員	5人
建物用途	工場	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
竣工年	2023年3月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	2,765 m ²	評価の実施日	2022年6月7日
建築面積	1,054 m ²	作成者	
延床面積	2,102 m ²	確認日	2022年6月13日
		確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★ B+

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 77%
③上記+②以外のオンサイト手法 77%
④上記+オフサイト手法 77%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 3.4
Q1 室内環境: 0.0
Q3 室外環境(敷地内): 2.1
LR1 エネルギー: 4.2
LR2 資源・マテリアル: 2.8
LR3 敷地外環境: 3.3

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm]= 0.58

2-5 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気質環境	N.A.

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4

機能性	N.A.
耐用性・信頼性	2.9
対応性・更新性	3.9

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.1

生物環境	1.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	2.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2

建物外皮の熱負荷	N.A.
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	5.0
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.8

水資源保護	3.4
非再生材料の使用削減	2.4
汚染物質回避	3.3

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

地球温暖化への配慮	3.9
地域環境への配慮	2.9
周辺環境への配慮	3.2

3 設計上の配慮事項	
総合 ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。	A 省エネルギー BEIm = 0.58
B 省資源等 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。ライフサイクルCO ₂ 排出率が、一般的な建物に対して77%。	C 緑化 特になし。
	D 雪処理 特になし。

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし	BELS認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用	なし	LEED認証	なし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016 (ver.1.4)
 (仮称)札幌トヨタ自動車備札幌分室建替工事

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								2.6
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル				-	-	-	-	
1.2 遮音				-	-	-	-	
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	
1.3 吸音				-	-	-	-	
2 温熱環境								
2.1 室温制御				-	-	-	-	
1 室温				-	-	-	-	
2 外皮性能	省エネ			-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				-	-	-	-	
2.3 空調方式				-	-	-	-	
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				-	-	-	-	
1 昼光率				-	-	-	-	
2 方位別開口				-	-	-	-	
3 昼光利用設備	省エネ			-	-	-	-	
3.2 グレア対策				-	-	-	-	
1 昼光制御	省エネ			-	-	-	-	
2 映り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				-	-	-	-	
3.4 照明制御				-	-	-	-	
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				-	-	-	-	
1 化学汚染物質				-	-	-	-	
4.2 換気				-	-	-	-	
1 換気量				-	-	-	-	
2 自然換気性能				-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	
2 喫煙の制御				-	-	-	-	

Q2 サービス性能				0.43	-	-	3.4
1 機能性				-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-
1	広さ・収納性			-	-	-	-
2	高度情報通信設備対応			-	-	-	-
3	バリアフリー計画			-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-
1	広さ感・景観 (天井高)			-	-	-	-
2	リフレッシュスペース			-	-	-	-
3	内装計画			-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-
1	維持管理に配慮した設計			-	-	-	-
2	維持管理用機能の確保			-	-	-	-
2 耐用性・信頼性				2.9	0.50	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30	-	-
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源		2.0	0.20	-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源		3.0	0.10	-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源		3.0	0.10	-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源		3.0	0.20	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源		3.0	0.20	-	-
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-
3	電気設備			3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備			2.0	0.20	-	-

3 対応性・更新性			3.9	0.50	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高: 3.9m以上。	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		[壁長さ比率] <0.1。	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		床荷重: 3900N/m ² 。	4.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	緑化		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雷処理		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ			-	-	-	
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.58 -	5.0	0.63	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ			-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.60	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源		3.0	0.22	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物に対して77%。	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 悪化 雪処理		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策している。	5.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.1	BEEランク	B ⁺
建物名称	(仮称)札幌トヨタ自動車株式会社分室建替工事				
建物用途	工場				
延床面積	2,101.7 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★☆	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★☆☆☆☆	

3. 重点項目のCASBEEスコア	
A 省エネルギー (最高点 20.0 最低点 6)	合計 17.0点 /20.0点
Q1 温熱環境	スコア 0.0 /0.0 LR1 建物外皮の熱負荷抑制
Q1 光・視環境	スコア 0.0 /0.0 LR1 自然エネルギー利用
	LR1 設備システムの高効率化
	LR1 効率的運用
B 省資源等 (最高点 27.2 最低点 8.6)	合計 15.5点 /27.2点
Q2 耐用性・信頼性	スコア 1.5 /2.6 LR2 非再生性資源の使用量削減
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.7 /4.3 LR2 汚染物質含有材料の使用回避
	LR3 地球温暖化への配慮
	LR3 地域環境への配慮
C 緑化 (最高点 26.8 最低点 5.4)	合計 11.8点 /26.8点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 1.7 /8.6 LR3 地域環境への配慮
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 6.9 /11.4
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.7 /4.3
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)	合計 0.0点 /3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.0 /1.0 LR3 地域環境への配慮
	スコア 0.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数